

私の故郷 その2 「福島県国見町」 (神奈川) 小関隆夫

前は「第一の故郷」と思う東京世田谷区鶴巻町について紹介しました。
今回は「第二の故郷」の思い出を綴ってみたいと思います。

そこは宮城県境に近い福島県国見町で、小学校時代に夏休みを過ごした母親の実家がある所です。母親の実家は、福島県伊達郡国見町で材木商を営んでおり、敷地内に居宅と製材工場と貯木場とを保有してました。母親が2歳の頃に建築された2階建ての母屋は、天井が高い作りで、二階の大きな部屋でひとり寝ると、最初は落ち着かなかったことが思い出されます。

滞在中は、製材所内の帯鋸目立て職人さんと仲良くなり、目立て作業場に入り浸って作業を見学し、1周8m位の帯鋸の刃にアサリをつける技は特に興味を持って見てました。

敷地の脇には溜池（周囲300m位と200m位の二つ）があり、この溜池を囲む周回道路を走り回ったり、溜池で鮒を釣ったりして遊んでました。現在では、この溜池とその周辺はきれいに整備されて、町民の憩いの場にもなっているようです。



国見町には、東北自動車道の国見インターが設けられて、自動車交通は便利になっています。

また近くを通過するだけの東北新幹線は、少し前の地震での脱線被害が大きなニュースにもなりました。一方で在来線の藤田駅に止まる列車は少なく、鉄道交通の不便さは変わってないようです。

私には東京と福島に二つの故郷があると思っています。

昔はともに似たような地域環境であったように思いますが、60年も経てば、それぞれ大きく変化して、昔の面影は少なくなっており、「故郷は遠くなりにつれ」との思いが強くなります。

以上